

本内容に関する問合せ先：

一般財団法人 日本環境衛生センター 管理部広報課

TEL: 044-288-5095,

Email: koho@jesc.or.jp

プラスチック・スマートシンポジウムを開催！

－プラスチックと賢く付き合うための地域の取組み－

3月1日、環境省と兵庫県主催「令和6年度プラスチック・スマートシンポジウム」が神戸市で開催されました。当センターが企画・運営を務め、対面とオンライン合わせて約300人が参加。海洋プラスチックごみ対策を地域で進めるための方策について、活発な議論が交わされました。

兵庫県による取組みや、ローカルブルー・オーシャン・ビジョン採択自治体による官民連携の取組み、瀬戸内プラごみネットワークにおける取組みが紹介されました。また、「海洋プラスチックごみ対策を地域でどう進めるか」をテーマに、パネルディスカッションも行われました。

本シンポジウムの詳細は、[環境省プラスチック・スマート専用ホームページ](#)をご覧ください。
後日、アーカイブ配信も予定しております。



パネルディスカッションの様子
(進行はサステナブル社会推進部の鈴木部長)

全国都市清掃研究・事例発表会

2月5日、6日の2日間、富山市にて第46回全国都市清掃研究・事例発表会が開催され、**職員2名が研究発表を行いました。**

① 岡部技師

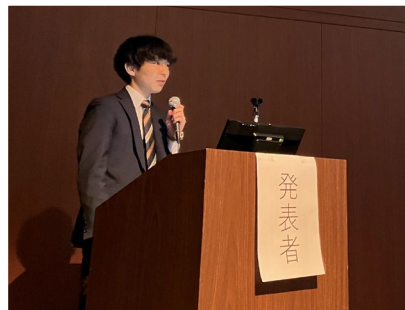
「公表資料から見たごみの種類組成等の時系列的な変動及び地域特性による傾向の考察」

ごみ焼却施設を整備・維持管理する上で、ごみ質は重要な設計条件です。本調査では、公表資料を基に、ごみの種類組成及び低位発熱熱量等の経年的な変動原因や地域特性等による傾向を調査、考察しました。

② 西畑技師

「製品プラスチック、厨芥類の分別に伴う焼却ごみ量、発熱量の全国推計」

廃棄物処理施設の広域化・集約化に向けて、公表資料を基に市町村別のごみ組成を推計し、ごみ分別の進展が想定される製品プラスチック、厨芥類の分別量等の条件を設定しました。また2040年時点での各市町村別のごみ量、低位発熱量の推計を実施しました。





pick up news

第57回ペスト・コントロールフォーラム

令和6年度 ねずみ・衛生害虫駆除研究会

当センター、全国環境衛生・廃棄物関係課長会、（公社）日本ペストコントロール協会が主催する**第57回ペスト・コントロールフォーラム**が、**2月6日、7日の2日間、高知市で開催**されました。自治体担当者及び関係団体の会員等が集まり、ねずみ・衛生害虫駆除・感染症等の諸問題について、講演等を通して情報交流を行いました。

当センターからは理事長及び環境生物・住環境部から2名の合わせて3名が講演を行いました。

- ① 南川 理事長 「温暖化と廃棄物と感染症」
- ② 橋本 部長 「ダニの生態および感染症について」
- ③ 皆川 次長 「家庭用殺虫剤のヒトスジシマカ成虫に対する実地試験結果」

職員
Voice

橋本 知幸 部長（環境生物・住環境部）

長年衛生害虫に関する事業や研究を行い、ペスト・コントロールフォーラムでは、座長を務めています。

当センター隔月誌「生活と環境」5月号（2025年5月発行予定）では、マダニに関する記事を掲載予定です。

Q. 専門及び一番研究してきた衛生害虫は？

A. 衛生動物学、屋内塵性ダニ類（ハウスダストの中のダニの総称）

Q. 業務やご自身の研究に関連して、最近気になっていることは？

A. 飼育の難しいクロバエ、ミズアブの飼育の試行錯誤をしています。

また、どの家にもいるハエトリグモのトコジラミの天敵としての捕獲能力を検討しています。今年の秋の学会までに成果をまとめて発表したいと考えています。

環境と衛生のオンラインセミナー

今回は3月27日（木）13:30～15:00



当センターホームページより
申込みできます

大気汚染防止法・石綿障害予防規則の改正により、**令和8年1月1日着工の工作物の解体・改修工事**からは、**資格を有する者（工作物石綿事前調査者）**による**事前調査が法定化**されます。

施行まで1年を切り、**各自治体においても工作物石綿事前調査者の養成が急務となる中**、工作物石綿事前調査者制度では工作物の種類によって事前調査資格要件が異なる等、複雑な要素も含まれています。本セミナーでは、**工作物別の事前調査資格要件や、事前調査結果の報告対象となる特定工作物について、自治体・関係者の皆様にわかりやすく解説**します。

- ① 大気汚染防止法に基づく石綿飛散防止対策について

【講師】環境省 水・大気環境局 環境管理課 環境汚染対策室 室長補佐 中澤 剛 氏

【概要】工作物石綿事前調査者制度の概要について

- ② 新設された「工作物石綿事前調査者」による工作物における石綿事前調査で求められることについて

【講師】当センター サステナブル社会推進部長 鈴木 弘幸

【概要】工作物別の事前調査資格者の要件や事前調査結果の報告対象となる特定工作物についての解説、国の標準テキストを作成した「確かな知見」と「豊富な知識」に基づいた工作物石綿事前調査者講習の紹介

当センターは、廃棄物、生活衛生、環境保全の分野の事業を行っており、その基盤を生かして、国際事業にも取り組んでいます。

3 JICAや環境省事業を通した国際支援

当センター国際事業部における取組み

① 2024年度JICA課題別研修「リサイクル制度設計」

1月9日～同22日にかけて、東南アジア、中東、アフリカ、南米の10ヶ国11名を対象とした訪日研修を行いました。受講者に日本のリサイクル政策及び法制度の概要や考え方を共有し、各国におけるリサイクル促進に向けた、政策策定能力の強化を目的としています。



研修の様子

② 環境省主催「循環産業研修」

当センターは環境省の委託を受けて「我が国循環産業海外展開促進のための研修」を実施しています。今年度は、オンライン研修3コース、訪日研修4コースの計7コースで計114名を受入れました。日本の制度や技術を学んで各国の廃棄物管理の改善に活かしてもらうとともに、日本企業の海外ビジネス展開に結び付けることを目的とする研修です。各国の中央政府や地方政府の担当官を招聘し、日本の廃棄物管理に関する講義に加え、自治体や企業の協力を得て工場視察を実施しました。



工場視察の様子

4 バンコクのごみ減量化に向けた取組み

福岡県における取組みの支援

福岡県の友好提携先であるタイ国バンコク都では、観光客の増加や都市の発展に伴ってごみの発生量が増え、ごみの減量化（ゼロウェイスト）が課題となっています。

本業務は、福岡県が実施する「バンコク都におけるごみ減量化支援事業」の一環として、現地政府（Bangkok Metropolitan Administration）に対して再資源化の仕組みづくりに関する技術指導を実施することにより、バンコク都のごみ減量化に貢献することを目的としています。福岡県に位置する当センター西日本支局が受託し、3か年予定の業務の1年目を実施中です。

今年度の主な内容としては、第1回オンライン技術指導を1月24日に、第1回現地指導を2月5日～同7日に、第1回現地ワークショップを3月20日～同21日にそれぞれ実施しました。

pick up news

自治体向け 環境科学セミナー

1月27日、28日の2日間、環境省より委託を受けたセミナーを開催し、自治体関係者約260名が参加しました。

環境省では地方自治体の協力の下、1974年度以来環境中における化学物質の残留濃度を調査する化学物質環境実態調査を行っており、その関連業務を当センターが受託しています。本セミナーでは、本調査を担当する地方自治体職員を対象に、調査に関わる情報の共有と近年の化学物質関連の環境問題の紹介を目的としたプログラムを用意しました。当センターはプログラムを環境省へ提案し、当日の運営や進行も担いました。

廃棄物関連の話題について意見交換

2月20日、一般社団法人環境衛生施設維持管理業協会（JEMA）の廃棄物部門と当センターの環境工学第一部による技術交流会が行われました。

JEMAは施設の運営及び維持管理に関する知見を、当センターは運営モニタリングや精密機能検査等に基づく知見を有しており、情報交換は双方にとって重要なものとなっています。今回、当センターからは若手を含む14名（対面11名、オンライン傍聴3名）が参加し、双方の活動方向の後、プラスチック資源循環、ごみ処理施設維持管理のコスト削減等の最新トピックについて意見交換を行いました。

information

自治体の廃棄物関連データをビジュアル化

自治体が行う廃棄物のリサイクルや処理、施設に関するデータをグラフ等のビジュアルで確認できるデータベースが公開になりました。経年変化や類似事例との比較が簡単にできます。環境省が毎年実施している一般廃棄物処理実態調査のデータを用いて作成されており、データベース作成にはJESCも協働しました。
国立環境研究所の専用ホームページよりアクセスできます。

[一般廃棄物データビジュアライゼーション](#)

[検索](#)

国設の測定局の保守点検 in 小笠原

当センターが環境省から受託している「酸性雨モニタリング推進業務」では国内の酸性雨測定所11カ所で酸性雨の観測をしています。この内、小笠原諸島の父島の測定所は、本州から約1,000km離れており、そこで得られる大気や雨に関するデータは、人為的な汚染物質の発生源の影響をほとんど受けていないデータとして重要です。当センターからは2ヶ月に一度職員を派遣して現地調査にあたっています。

父島へは週に一度出ている片道24時間の船便でしか行くことが出来ません。道中は常に揺れとの戦いですが、その果てに見られるコバルトブルーの海は船酔いを一時忘れさせるほどに、心を打つ美しさです。

父島の海
(あいにくの曇りでした by 担当職員) →

